

9月9日は救急の日

自分や身近な人が大きなけがをしたり、意識を失ったりする場面を想像をしたことはありますか。「救急」について皆さんに知ってもらい、万が一の事態に備えるきっかけをつくれるよう、救急の現場を支える4人の救急救命士にお話を伺いました。

図▷記事について…広報統計課 ☎43-2248 ▷救急について…消防本部指令救急課 ☎44-4857

救急隊の業務を教えてください

高橋さん 助けを求めてきた人の元にいち早く向かい、脈拍や呼吸などを観察したり、話を聞いたりして、応急手当をしながら適切な治療を受けられる病院を選定し、迅速に搬送するのが私たちの仕事です。

朝の8時30分から翌朝8時30分までの24時間勤務で、訓練を行いながら出勤に備えています。



出動要請を受けてから約1分で出動します。

救急管理班の業務を教えてください

漆戸さん 「救命の連鎖」というものがあり、このうち、一次救命処置までは住民の人たちが関わる部分になります。この部分をサポートするため、心停止予防の呼びかけや応急手当の普及啓発活動を行うのが、救急管理班の業務の一つです。

救急の基礎をつくるという、現場に出る救急隊員とは異なるアプローチで、救急の現場を支えています。

住民が関わる範囲



「救命の連鎖」(命を救い社会復帰に導くための行動と一連のつながり)

どのようなときにやりがいを感じますか？

高橋さん 心停止状態の人に適切な処置をして、その後社会復帰したと聞くと、よかったなと思います。

また、病院に搬送した後、本人やその家族に「ありがとうございました」「助かりました」と声をかけていただくことも、次の現場へ向かうモチベーションにつながっています。

老久保さん 自分が担当した講習を受けた人が、「家族が骨折した時、習った通りに処置してから病院に行ったら、先生にすごく褒められたんだよ」と教えてくださったのですが、そういった話を聞くとうれしくなります。自分の伝えたことがしっかりと次につながっているんだ、取り組んでいてよかった、と感じます。

4人の救急救命士を紹介します

八戸広域消防本部 八戸消防署



第一救急隊長
たかはし としのり
高橋 寿則さん



第二救急隊消防士長
なかやま たくみ
中山 拓海さん

救急の第一線で救急救命士として活動しています。
八戸圏域内で最も救急出動件数の多い消防署に勤務しています。

八戸広域消防本部 指令救急課



救急管理班 消防司令補
うるしど しゅうきち
漆戸 秀吉さん



救急管理班 消防士長
おいくぼ ゆい
老久保 優衣さん

現場での経験を生かしながら、救急隊の運用や
応急手当での普及啓発、資器材の整備や救急車
の適正利用の呼びかけなどに取り組んでいます。

印象に残っている現場はありますか？

中山さん 分娩です。救命士人生で1回あるかないかといわれていますが、実は今までに3回経験しています。そのうち1回は、救急車の中で赤ちゃんを取り上げました。今から始まる命に向き合う緊張感や、取り上げて無事に産声を聞いた時の安心感は、分娩の現場ならではの思い出です。

このように、けがや心停止だけでなく、交通事故や分娩など、さまざまなケースに対応することになるため、幅広い分野の知識を掘り下げていく必要があるという面も、救急救命士の大変な部分であり、魅力でもあると思っています。

救急救命士の国家資格を取る際に勉強した範囲外のことも現場では起こるので、そういったケースに対応できるよう、自分から積極的に学びにいくことも多いです。



多様な現場で最善の処置ができるよう、さまざまな資器材を準備しています。
(左 救急車内部、右 酸素バッグ)

救急現場の課題はありますか？

高橋さん 年々出動件数が増え、10年前と比較すると約1.2倍になっています。この影響もあり、通報から現場に到着するまでの平均時間が10分を超えているのが現状です。高齢化の進行も要因の一つで、これからは、さらに出動件数が増えていくと思います。

本当に救急が必要な人の元に迅速に向かえるよう、救急車の適正利用にご協力いただく必要があります。

老久保さん 間違い電話や無音状態の電話、いたずら電話もかかってきます。これらの電話が救急要請の電話と同じタイミングでかかってくると、現場への出動・傷病者への処置が遅れてしまいますので、気を付けてもらえると助かります。

救急・消防などの要請	間違い電話	いたずら・虚偽通報	無音状態	火災・救急の問い合わせ
14,370件	547件	7件	717件	925件

7年度の119番通報受け付け状況

119番は緊急回線です

119番は、救急車・消防車を要請する緊急回線です。サイレン(災害情報)や病院に関することは、次の電話番号にお問い合わせください。

☎050-5536-5985(サイレンについて(自動音声))
☎24-3999(夜間・休日の当番医について)

救急車を呼ぶかどうか迷ったときはどうすればいいですか？

老久保さん こんな症状で救急車を呼んでいいのかと迷うときは、**#7119**※に電話をかけてください。看護師などの医療関係者が相談を受け付けています。

自家用車やタクシーでの救急外来の受診を勧められたり、119番にかけ直すよう言われたりと、具体的なアドバイスをもらうことができるので、ご活用ください。

※ダイヤル回線・公衆電話の場合 ☎017-718-0289

漆戸さん 緊急時は迷わず119番通報です。喉に物が詰まったとか、胸が苦しいとか、脳卒中のような症状があるときは、すぐに119番にかけてください。

中山さん 忙しいのに呼んでしまってすみませんと謝られることがありますが、不安でしたら気にせず救急車を呼んでください。私たちが向かうことで安心して、症状が落ち着いたということであれば、それでも大丈夫です。

15歳未満の救急相談は #8000

ダイヤル回線・公衆電話を利用する場合

☎017-722-1152

※ #7119・#8000は24時間・365日受け付け



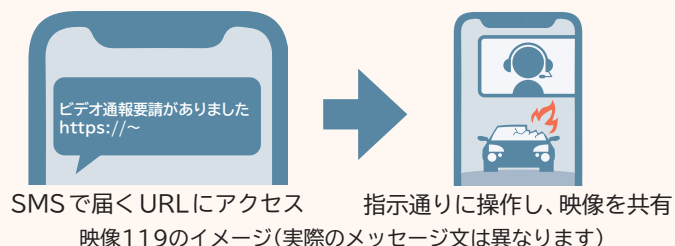
119番通報をするとき、何を伝えればいいでしょうか？

老久保さん 質問内容と順番は状況によって変わりますので、指令員が聞いたことに答えていただければ大丈夫です。質問に答えないと、救急車の出動が遅れてしまいます。

また、サイレンを鳴らさないで来てほしいと言われることがあります。緊急出動時は必ず鳴らさなければならないので、ご了承ください。

漆戸さん 通報者にビデオ通話で映像を共有してもらう仕組みもあります(映像119)。映像で現場の様子を把握する必要があると指令員が判断した場合、利用の依頼をします。対応をお願いします。通信料は通報者負担になってしまうのですが、どうかご理解ください。

高橋さん 119番通報の後、さらに詳しい話を聞くために救急隊から通報者に電話をかけると、つながることがあります。救急車を呼んだ後に来た電話は、救急隊からだと思って応答いただくと大変助かります。



傷病者の通院先や、処方された薬の名前が分からないときはどうすればいいですか？

漆戸さん 傷病者のマイナンバーカードを使って、診療薬剤情報などを確認する仕組みがあります(マイナ救急)。

家族がどんな症状でどの病院に通院しているか、お薬手帳がどこにあるか、気が動転して忘れてしまうこともあります。このようなときは隊員に傷病者のマイナンバーカードを預けると、救急隊が必要な情報を入手できます。

保険証とマイナンバーカードが結び付いていないと使えませんので、万が一に備えて、手続きをお願いします。

connect8との連携も始まりました！

コネクトエイト connect8は、在宅医療・介護を受けている人の情報を関係者間で共有するシステムで、迅速に救急搬送をするために役立っています。

登録している人は、救急車が到着したら、登録者であることを隊員にお伝えください。

☎(特非)Reconnect connect8事務局 ☎72-3301



救急隊員の服装チェック！



救急隊員は出動時、青い感染防止衣を着るにゃ。

よく使う道具を自分で厳選して、ベストに収納して持ち運ぶ隊員もいるんだにゃ！



現場に居合わせたとき、できることはありますか？

中山さん 私たちが到着した時、周囲の人がすでに応急手当をしているのは非常に助かります。

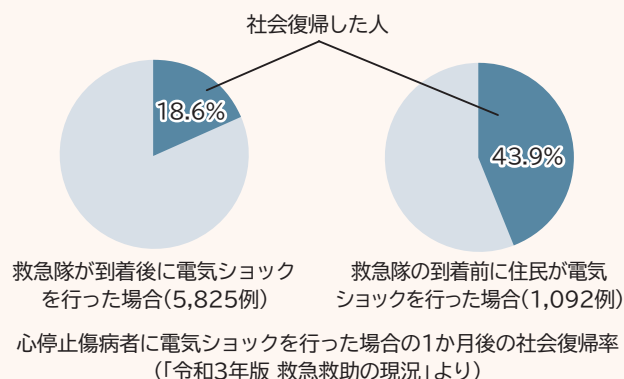
心停止の現場だと、心臓が止まってから胸骨圧迫(心臓マッサージ)を始めるまでの時間が短いほど効果的です。倒れていて心停止の可能性のある人に対しては、まず胸骨圧迫をしてください。

老久保さん 心停止の場合、何もしないと助かる確率が1分ごとに10%下がっていくといわれていますが、居合わせた人がすぐに心肺蘇生(胸骨圧迫と人工呼吸)をすると、命が助かる、社会復帰できる可能性が高くなります。

また、AEDを使って電気ショックを行うことで、さらにその可能性が高まります。

家族や知り合いに何かあった時、救急車が来るまでに

できることがあったかもしれないのに、と後悔するかもしれません。皆さんにはそういう気持ちになってほしくないのです。救命講習を受けていただきたいと思います。



救命講習を受けませんか？

消防本部では、団体・個人向けの救命講習を開催しています。けがをした時や喉に物が詰まった時の対処法なども学ぶことができます。

※知識の定着・更新のため、2～3年に1回の受講が推奨されています。



八戸市AEDマップがあります

万が一に備え、日頃から身近なAED設置施設を確認しておきましょう。

※設置場所は随時更新されます。

固保健総務課 ☎38-0706



市民の皆さんに伝えたいこと

119番通報があれば私たちがすぐに駆け付けますが、事故や病気を防ぐ「予防」の主役は皆さん自身です。食生活の見直しや適度な運動、熱中症対策としてのこまめな水分・塩分摂取、自転車に乗る際のヘルメット着用など、日頃のちょっとした心がけが、大切な命を守る予防につながります。



中山さん

万が一のけがや病気に備えるために応急手当の講習があります。多くの方が心停止や骨折、熱中症などに対する処置を当たり前に行うことが理想です。

救急車が到着するまでの約10分間、ただ待つのは不安ですが、応急手当ができると、自身と相手の安心につながります。ぜひ講習に参加してみてください。



老久保さん

本人や家族から正確な話を伺うのが困難な場合でも、迅速に情報を取得し、適切な処置・搬送ができるよう、マイナ救急やconnect8を運用しています。

個人情報の取り扱いに配慮して活動していますので、救急車を呼んだ時は、落ち着いて情報を提供いただければと思います。



漆戸さん

皆さんの日常とまちの安全を確保することが、私たち消防の使命です。1秒でも早く駆け付け、1人でも多くの命を救うためには、救急車の適正利用や応急手当の習得など、皆さんの協力が不可欠です。これからも救急業務へのご理解をお願いします。誰もが安心して暮らせる未来を一緒につくっていきましょう。



高橋さん